

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の初年度目)

1. 研究課題

(和文)トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究-物語からモニュメントまで

(英文) Trans-disciplinary Studies of Organizing Traumatic Experiences and Memories:
From Narratives to Monuments

2. 研究代表者

(氏名) 田中雅一

3. 研究期間

平成22年4月 から 平成27年3月 まで

4. 研究目的(400字程度)

トラウマの原因は、幼児のころの虐待、家庭内暴力、学校でのいじめ、暴力行為、とくに戦争での経験、犯罪や事故、自然災害などである。本研究では、トラウマをより広い意味で苦悩 (suffering) や痛み(pain)とみなす。この苦悩にたいし人びとがどのような形で対峙し、克服しようとしてきたかについて考えてみたい。この過程をここでは組織化と表現する。トラウマは一般に心理学や精神医学が対象とする問題領域であるが、組織化という過程はこれらの領域にとどまるものではない。広く、カウンセリングを含む医療、芸術、宗教、司法、メディア、コミュニケーションなどの分野における研究と実践領域にまたがる。トラウマやPTSDなどの医療用語が、日常的に使われるようになって久しい。心理学や精神医学用語が普及していった理由は、わたしたちの世界が脱神学化してきたことを意味している。そのような状況でトラウマについてあえて考察することは、現代日本社会の分析にも貢献することになる。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

初年度は、年に10回、20名前後の研究発表を行った。主としてメンバー間の相互理解を深めるために、メンバーを中心とする研究発表が主であった。4月12日 田中雅一、班員全員、5月17日 酒井朋子、武田龍樹、5月31日 福浦厚子、立木康介、6月7日 金谷美和、田中雅一、6月14日 清水展、青木恵理子、7月5日 兼清順子、松嶋健、7月12日 松田素二、佐藤知久、10月18日 木下直子、花田里欧子、11月29日 伊藤順二、12月13日(月) 大村敬一、2011年2月14日 有菫真代、西真如の計20名が報告した。2年目はゲスト・スピーカーを数名招いて、議論を深めていきたい。あたらしくホームページを開設し、そこに研究発表の要旨やレジュメを掲載できるようにした。

6. 研究成果の概要 (400字程度)

初年度であるため、各自の関心やこれまでの研究を中心に発表・討論した。おおまかに以下の4点の視点からまとめることができる。今後はこれらの視点をさらに深めていきたい。

1) 理論的・実践的考察：トラウマの分類、歴史的な形成、その問題点。また精神分析や心理療法との関係が主として論じられてきた。また、特定の文化と社会的苦悩との関係、2) 紛争や戦争をめぐる議論：北アイルランドの紛争、カンボジアならびにアルメニアの虐殺、原爆被害、日本の敗戦・占領経験、イラク派兵経験のある自衛官たちのストレスなどを取りあげた。3) 災害：2001年インド西部地震についての発表がなされた。4) 病気： HIV (ニューヨークとエチオピア)、ハンセン氏病患者 (日本) などの事例を取りあげた。5) 性的被害：従軍慰安婦問題が論じられた。6) トラウマの克服：戦争や災害、病気をめぐる議論でも指摘されてきたが、展示やアート、語り、歌の意義などが論じられた。

7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など)

2010年度トラウマ研関連の業績

<編著書>

●鈴木七美・藤原久仁子・岩佐光広編『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』御茶ノ水書房、2010年10月

●論文

井家晴子「つながりとしての妊娠・出産—モロッコ農村部から妊産婦をとりまく環境を考える」『アジア遊学』(特集：世界の出産)、勉誠出版、pp.222-233、2011年3月。

藤原久仁子「巡る：岡山県井原市『嫁入らず観音院』に託する高齢者の想い」鈴木七美・藤原久仁子・岩佐光広編『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』御茶ノ水書房、pp.149-161、2010年10月。

藤原久仁子「『ファンダメンタリスティック』という選択——カトリック世界における名付けと名乗りと生き方のポリティクス」吉田匡興・石井美保・花渕馨也編『シリーズ来たるべき人類学3 宗教の人類学』春風社、pp.97-125、2010年11月。

●発表

井家晴子「子宮をめぐる時間—モロッコ農村部においてハイリスク妊娠・出産を考える」、京都市中ロータリークラブ例会、於京都ホテルオークラ、2010年11月1日。

井家晴子「帝王切開と助産師」、『第4回正常出産カンファレンス ～お産、その豊かな啓示～』正常出産研究会、於薬業年金会館、2010年11月27日。

Tomoko SAKAI “Identity and Afterwardness: Narrating Social and Personal Changes in Northern Ireland”, International Oral History Conference XVI, University of Economics in Prague, Czech Republic, July 2010.

酒井朋子「紛争経験を聞くということ」、大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」シンポジウム「コンフリクトをみる・きく——方法論再考」、大阪大学人間科学研究科ユメヌ・ホール、2011年1月22日。

●その他

酒井朋子企画「抵抗を縫う——チリのキルトにおける触覚の物語」、大阪大学総合学術博物館、2010年10月12日～16日（主催：大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」、共催：大阪大学総合学術博物館、協力：大阪大学21世紀懐徳堂）。